

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ヒート・ラヴァ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.038	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ヒート・ラヴァ

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2

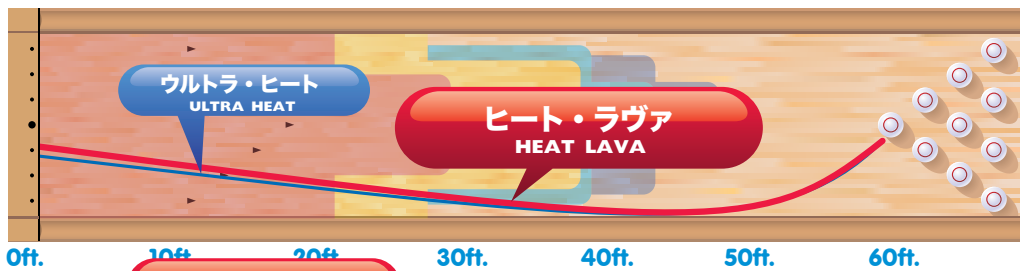
比較対照ボール：ウルトラ・ヒート

フレアーの幅 インチ

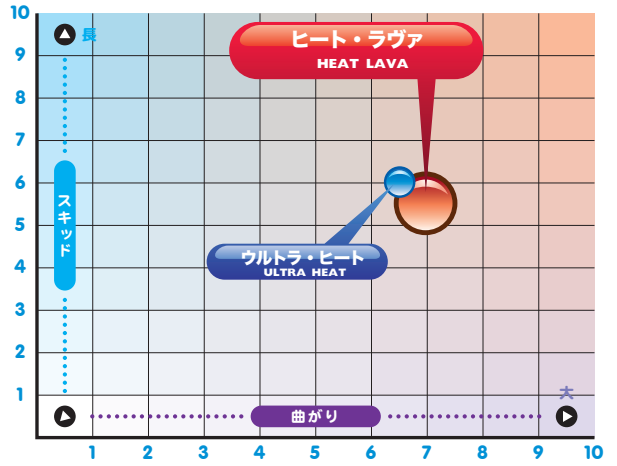
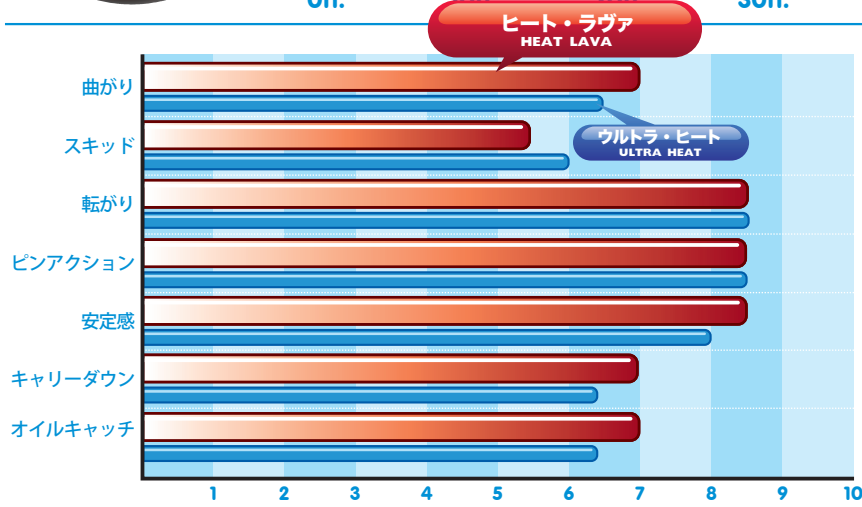
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

TRACK社でMid Performance領域のボール、それがKINETICとHEATです。KINETICはShuttleコアというナンバーシリーズの"4と5"の領域を担っていた実績のある代表的なコア・テクノロジーです。HEATはTri-Coreで長い間HEATを中心にこの領域をカバーしています。この2つのボールは各々その時代にそれぞれの役目を果たすように作り上げられますが、AsymmetryとSymmetry(非対称コアと対称コア)、やや先の動きのシャープさを求めるShuttleコアか丸びをおびた柔らかくキレルTriコアでドリルレイアウトを含め選択される方も多そうです。今回のHEAT LAVAはMid-Performanceでは初めてQR-7 Pearl(Quick Response)の"7"を採用した、スキッドの長さを出しつつもピンヒットまでしっかりとエネルギーを蓄積できるスペックで仕上がってきています。なんとと言っても歴代HEATの決まり文句は予測可能な一貫した安定した軌道でしょう。柔らかくキレルイメージがあったり、ややシャープさが加わったりは今までのHEATシリーズで表現されてきましたが、やはりコントロールしやすいアクションは中盤から後半本当に役に立ちます。特に後半はすでにラインが出ている場合、オーバーアクションをせず安定した軌道は、積極的な攻めとラインの広さを感じさせてくれます。この"うまみ"を知っているボウラーはこのようなボールをバッグに入れておくことが多く、数個のレポートのうち必ず持参するボールの一つになっているでしょう。今回のHEAT LAVAはQR-7 PearlカバーになったことでDR-6 HybridのUltra HEATよりもやや食いつきの速さは感じますが、でもHEATのイメージそのものとは全く影響がなく、後半というイメージよりも中盤から使いやすくなった印象が強いです。"7"の強さでもスキッドからのレスポンスはPearl素材そのものの、メリハリを感じつつも安定した軌道は相変わらずHEATそのものです。

特記事項

HEATシリーズ初のQR-7のPearl素材で作られた、ミディアムの後半からやや多目的になって仕上げられました。ゲームメイクのし易さや競技ボウラーはバッグに入れておくべきでしょう。